

菩提所地藏院での唄(七月二十七日)

へまいる来てよ是の御門を見申せば 上はじゅらく日ぐらしの門日ぐらしの門

へまいる来てよ是の道場見申せば 香の煙が天に輝く天に輝く

五社八幡神前での唄(四月八日)

へまいる来てよ是の御庭を見申せば 黄金黄砂をそんよと散らしたそんよと散らした

へまいる来てよ是の御宮を見申せば いかなる大工が建てたやら 四方四面くさびひとつでくさびひとつ
で

へまいる来てよ神のまがきを通るには むすびかけるはあびらうんけんあびらうんけん

組頭宅での唄

へまいる来てよ是の御坪を見申せば 牡丹芍薬けいとうげの花けいとうげの花

へまいる来てよ是の館を見申せば 白きねずみが金運ぶ金運ぶ

以上がある。そして明治六年七月には、町獅子世話人として、菅波甚次郎、若松栄吉、横田久次郎、若松三次郎、猪狩佐助の名前が見られる。

由来と沿革……町獅子にも吉田久次が与えた免状が保存されている。

百野吉田久次免状

元禄三年庚午七月免也

獅子舞 若松権八